

衛生学教室



教授
大槻 剛巳

教育重点及び概要

2011年度から衛生公衆衛生学、予防医学、健康管理学、健康増進医学、中毒学等の社会医学系講義が「医学・医療と社会ユニット」として統合されて、第4学年に授業を行っていたが、2014年度からは、同じく第4学年に対して「環境社会医学ユニット」と「予防医学ユニット」として再編される。

これは、これまで別ユニットで担当されていた法医学領域の講義を、社会医学系に全体として統合すること、それに伴って我々の教室に毒性学専門の教員が新たに赴任することになったこと、そして、従来も講義コマ数として比較的大きな講義ユニットであり、学期をまたがった科目となっており学期制の評価を重んじる本学としてはコマ配分などで苦慮する面が生じていたこと、そして、本邦全体としての臨床実習の強化の潮流に合わせて第4学年から臨床実習が開始されることによるカリキュラムの再編成等の理由による。

衛生学教室としては、「環境社会医学ユニット」の中で、食品保健・環境保健・産業保健の授業を担当するとともに、2014年度から開始される法医解剖見学を担当する。法医解剖見学については、岡山大学法医学分野のご協力を得て、岡山大学鹿田キャンパスの法医解剖室で行われる法医解剖の見学をさせていただく。なんとといっても、実施されることを予め立てておくことが出来ない実習になるので、開始当初は学生・教員ともに若干の混乱が生じる可能性もあるが、可能なかぎり円滑に見学が行われるように実践したい。

また「予防医学ユニット」では学外施設の見学・実習を担当する。全教員がその引率にあたる。見学・実習では地域保健、感染症対策、疾病が原因で社会的あるいは政治的に弱者となった方々への施設、老人保健と福祉、労働衛生、廃棄物処理、健康増進対策、国民栄養などの観点から、百聞は一見に如かずの言葉通りに、現場を見学そして体験させていただき、将来医師になる者としての視点で見学・実習を行わせていただくことになる。

既に、第3学年ではほぼ臨床医学の履修も終了し、ほとんどの疾病の病態などが把握されている上で、見学・実習を経験することにより疾病と社会との関わりについて、十分な理解と掌握が得られるようにと考えている。

ほとんどの見学先では、個々の学生が異なったレポートテーマを与えられ、見学の感想とともに、レポートとして何らかのテーマについて、文献や情報を取得した上で、自らの考察を加えるという作業を行う。そして、その提出についてもWEB上で行い、全員分が揃った段階で、WEBを介して見学先の施設の方々にも閲覧していただけるシステムを構築しており、こういった体験はe-Learningの実践としても有用ではないかと長年、対応している所である。

e-Learningに関連して、「環境社会医学ユニット」と「予防医学ユニット」では、期末試験、補充試験については、e-Testingを実施する予定である。特に第4学年は、2学期末の時期にCBTを受験することになっているが、CBTの場合には、主に五者択一あるいは択二のような問題形式においてコンピューターでの回答形式であること、またコンピューターならではの問題に関連する画像などの提示もモニター上で閲覧することになること、などを考慮し、学内試験においても同様の経験をできるようにということで、我々は数年以上にわたってe-Testingを行っている。実際にはキーボードでの入力による筆記問題の出題も可能ではあるが入力スキルの個人差などを配慮し、また、CBT自体に筆記出題がないことも勘案して、社会医学系のe-Testingでは、五者択一あるいは択二の問題形式で出題している。ただ、CBTが多数のプール問題から選択された問題が、個々の受験生で異なってくることの体験であることも考慮して、しかし、科目試験の場合には、プール問題の設定は、個々の学生の問題全体としての難易度の差が出てはいけなこともあって、実施できず全員が同じ問題を受験することにはなるが、WEBで構築することのメリットとして、問題の出題順を個々

の学生でランダムに設定することができる上、同じ問題でも選択肢の並び順もランダムに設定することが可能である。これによって、PCのモニター上で、隣に着席している学生と、同時に同じ問題に取り組むことも非常に稀な上、その状況でも選択肢の並び順は異なるという状況でのテストとなる。学年が始まる4月初旬の1コマを利用して、それぞれの見学、さらにe-Testingのオリエンテーションの時間を設け、学生も当惑なく対応できるように努めている。

教室の学問領域に対応するこういった授業以外に、西村は第1学年の教養選択科目リベラル・アーツⅠの中の「ワンダーサイエンス」の主任を務める。

また大槻は、2012年度ならびに2013年度に第2学年の教養選択科目リベラル・アーツⅡで受け持った「健康と素因・環境そして生活」及び「健康と、それを取り巻く環境」の2つの科目について、2014年度には9年目を迎える「大学コンソーシアム岡山」における単位互換遠隔授業制度の一環としてのVOD (video on demand) 配信科目として、配信することになっている。本学学生は修学が単位制でないこともあり、またカリキュラム設定が強固であるために、「大学コンソーシアム岡山」の展開する単位互換制度を利用することはないが、参画している大学として、この組織のメインテーマである教育改革とその実践の中での単位互換制度に協力するために、それぞれの科目については当該年度に、まずLIVE配信授業の前期科目(本学では1学期に実施していた)で他学の学生がTV会議システムを介して受講した実績があった。また、それぞれ後期科目としてVOD配信をし、これも他学の学生が受講して単位を与えてきた。しかし、2014年度が学会主催という時間的な事情に加えて、「大学コンソーシアム岡山」自体でもLIVE配信授業の受講生の増加が滞っており、このLIVE配信にかかるTV会議システムが、岡山理科大学が平成21~23年度に文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」として採択された『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—として整備されたこともあり、支援期間後の有効活用という責務の中で、受講生の増加が必須ということもあって、オムニバス授業(2~3大学の教員が同一科目を担当し、それぞれの大学での講義以外に協調する他学講師の授業をLIVE配信で受講するというシステム)などの新規枠組みを検討中ということもあって、LIVE配信については中止することにした事情がある。よって、VOD配信について、これまでの科目を提供することによって「大学コンソーシアム岡山」への参画大学として

の責任を遂行しようという展開である。

なお、我々の教室では例年通り、医療福祉大学臨床工学科、医療短期大学臨床検査科ならびにリハビリテーション学院の講義も実施する。

○自己評価と反省

担当する領域を、割り振られた時間の中で、いかに工夫を凝らして学生諸子に医学医療の面白さ、醍醐味を伝えることが出来るのか、ということに腐心している訳だが、なかなか、道遠しという現実もある。発想を豊に自由にし、自らを見つめること、そして創意工夫に努力することによって、今後とも将来の試験に合格するためというのも勿論であるが、医科学に対する興味を惹起できるように教室員一同精進したい。さらに、何事もある面、のびのびと大らかに向き合うことが成業するには必要な面もあり、その観点も活かしていきたいと思っている。またe-Learning/Testingなどの先端技術も効率よく導入出来ればと考えている。

研究分野及び主要研究テーマ

研究は教室として「環境免疫学」を実施しており、中でも「珪酸・アスベストの免疫影響」をその中心に据えている。このテーマは前任の植木絢子教授の頃より行っているもので、クボタショック以来の本邦でのアスベスト禍に関連した医学医療の関心の集中の以前より鋭意努力している処である。2014年5月25~27日に第84回日本衛生学会学術総会の会長を大槻が務めた。衛生学の領域では最大・最重要な学会であり、盛会裏に終了することができた。さらに、いくつかの他施設・他研究室との共同研究も展開しており、我々のテーマとその周辺領域との関連での検討によって、環境中物質などによる免疫動態の変化を包括的に捉えていく研究を進めている。

○自己評価と反省

上記のごとく、我々の研究については、一定の評価は得てきているとは考えられるが、最終的に論文発表をすることによって研究の国際貢献が成されると考えるため、その努力をこれまで以上に講じていかなければならないと考える。

将来の改善方策

教育・研究両面で、基本的には厳しい自己評価と改善に向けた創意工夫、そして弛まぬ努力に尽きると考える。そして医科学研究である以上、今、この一瞬の実験が、あるいは、教育課程の中での一言ひとことが、現在のあるいは近い(もしくは遠い)将来の健康障害を有する人々への福音になるべきものであらねばならないということを片時たりとも忘れないように心がけることが必要であろうと考える。